# フランキー・スターライト／世界で一番素敵な恋（1995）

FRANKIE STARLIGHT

**メディア** 映画
**ジャンル** ドラマ
**製作国** イギリス／フランス／アイルランド
**色彩** Color
**時間** 100分
**初公開日** 1996/06/01
**公開情報** ギャガ・コミュニケーションズ＝ゼアリズ

**【解説】**

第２次大戦の混乱期、アイルランドの港町にどこか陰のある美貌のフランス娘ベルナデットがたどり着く。移民管理局員ジャック（バーン）は妊娠していた彼女に同情し、その出産に一人立ち会う。それが契機で不幸な少女と妻子ある中年男は道ならぬ恋に落ちる。生まれたフランキーは小人症だったが、少年となりそのことを気に病む彼に、ジャックは壮大な星の下では人間などちっぽけなものだと、天体観測の喜びを教える。また、母もそんな彼を『星の王子様』にたとえ、励ますのだった。突然の転勤でジャックが去って後、母子の前に現れたのがテリー（ディロン）。彼は避難船で見かけたベルナデットを忘れられず、いったん退役し故郷テキサスに帰っていたが、彼女を捜し求め再び欧州へ舞い戻ったのだ。彼もまたフランキーをわが子のように愛し、熱望して母子をテキサスに連れて行くのだが……。

ハンディをものともせず、星と文学に精通し、やがては自分のそうした思い出を一編の小説に認めるフランキー。その少年時代をペントリーが、成長してからをウォーカーが演じるが、共にこれが初の映画出演とは思えぬ好演で、何より母ベルナデットに扮するパリローのナチュラルでいてミステリアスな存在感は圧倒的。バーンの渋さ、ディロンのぬくもり、そのほか端役に至るまで演技人の充実には目を見張らされる。不可思議な、そして、胸を焦がす愛の寓話である。

**【クレジット】**

| | | |
|---|---|---|
| **監督** | マイケル・リンゼイ＝ホッグ | Michael Lindsay-Hogg |
| **製作** | ノエル・ピアソン | Noel Pearson |
| **原作** | チェト・レイモ | Chetto Laymo |
| **脚本** | チェト・レイモ | Chetto Laymo |
| | ロナン・オリアリー | Lonan O’leary |
| **撮影** | ポール・ローファー | Paul Laufer |
| **音楽** | エルマー・バーンスタイン | Elmer Bernstein |
| **出演** | アンヌ・パリロー | Anne Parillaud |
| | マット・ディロン | Matt Dillon |
| | ガブリエル・バーン | Gabriel Byrne |
| | ルディ・デイヴィス | Rudy Davies |
| | ジョージナ・ケイツ | Georgina Cates |
| | コーバン・ウォーカー | Coban Walker |
| | アラン・ペントリー | Alan Bentry |
| | バーバラ・アリン・ウッズ | Barbara Alyn Woods |

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.